

2018 年度 事業報告（案）

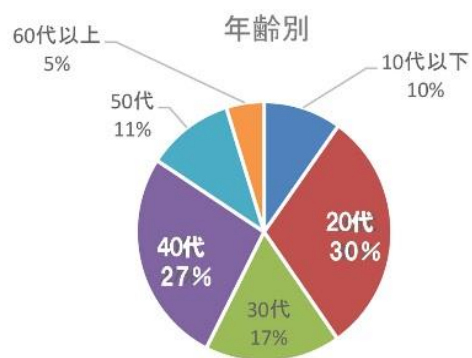
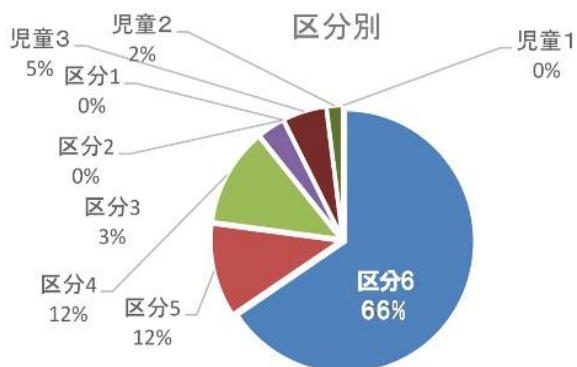
施設名 身体障害者自立体験ホーム なかまっち

1 利用状況

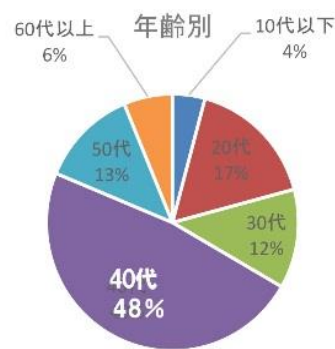
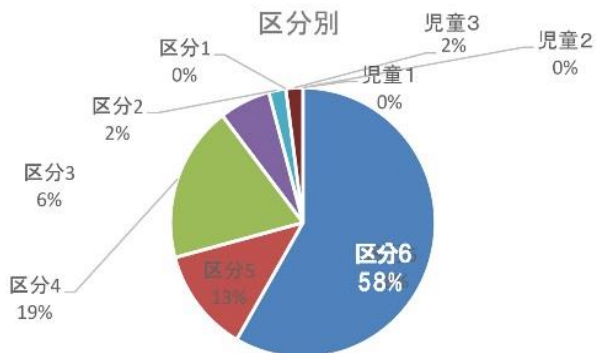
事業名	自立体験事業		短期入所事業		日中ショートステイ事業
	一般利用	短期利用	短期入所	緊急利用	

利用実績	定員	3 人	2 人	2 人	1 人	1～2 人
	利用件数	10 件	78 件	355 件	59 件	325 件
	利用日数	650 日	261 日	1031 日	186 日	325 日

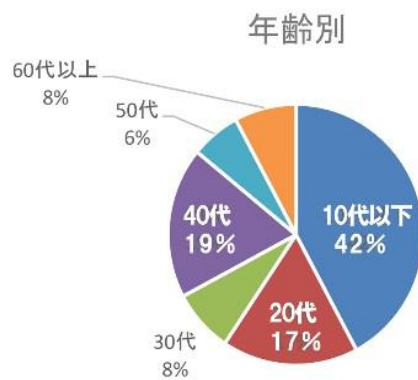
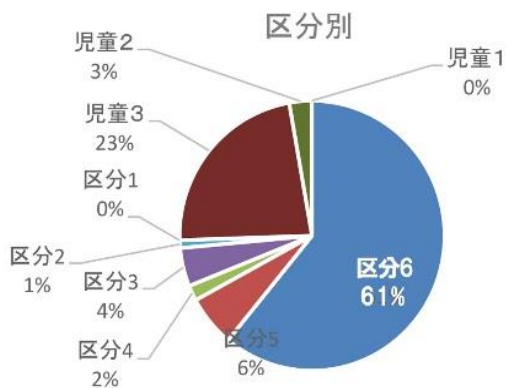
短期入所



緊急利用



日中ショートステイ



(1) 活動・支援の内容

概要

<p>① 自立体験事業（世田谷区独自事業）</p> <p>2018年度のスプリンクラー工事実施期間中は、自立体験室が休業となったため、昨年度に比べて稼働率は減少した。一方、この期間に利用者と家族が話し合いを持ち、事業再開後に一般利用に踏み切ったり、定期的な利用を行う方が増えるなど、数字には表れない変化が起こっている。</p> <p>【一般利用（1か月以上1年以内）】8名が利用、うち3名がアパート等での一人暮らしに移行、2名が自宅でヘルパーとの生活に移行。3月現在3名が利用中で一人暮らしやヘルパーとの生活を目標している。</p> <p>【短期利用（2日以上1か月以内）】15名261日利用。ケースワーカーを含めたケース会議が持たれ、2名が継続的な利用を開始することになった。</p> <p>② 短期入所（緊急利用含む）事業（法内事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 2018年度、延べ355名が利用。2017年度に比べ微増している。利用者の障害支援区分は4～6（児童3）が全体の約95%を占め、ほとんどが重度の方の利用となっている。特に「他施設で利用を断られた」などと、細かい配慮が必要な方の利用も多い。また介護料の改定があり、短期入所利用者の介護に当たるヘルパーの労働条件を改善すると共に、非常勤職員を増員し介護に配置した。これにより、複数のスタッフで一人の利用者に関わり、チームで支援する体制を強化することができた。 緊急の短期入所については、延べ59名が利用、2017年度に比べ増加している。利用の事由は家族の入院が最も多く（26%）次に家族の疾病が続く（22%）。最近では虐待が疑われるケースや家族の介護疲れなど保健福祉課や相談支援専門員からの相談により、緊急に対応するケースが増えている。 <p>③ 日中ショートステイ事業（自主事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> 依然として需要は高く、短期入所と組み合わせてより自由度の高い利用につなげている。一方、施設全体の利用者数が増え、空き部屋が確保できないことで、利用者には十分なスペースを確保できないことがネックとなっている。
--

年間行事

月	内容	月	内容
4月	土曜サークル、防火・防災管理者講習受講（1名）	10月	1階工事中（2階にて事業継続）
5月	定例食事会（40名）・語る会	11月	2階工事開始（1階にて事業継続）、玉川支援ねっと研修会
6月	施設長会	12月	工事終了・引渡し、法人研修、地域交流クリスマス会（58名）
7月	なかままち会議、AED講習会、定例食事会（36名）、語る会	1月	定例食事会（35名）、語る会、ノロ対策研修
8月	新人研修	2月	江古田の森見学（3名）、移乗介助研修（5名）
9月	法人研修、スプリンクラー1階工事開始（1階から2階へ機能移転）	3月	定例食事会（35名）、語る会、施設内研修（課題）、避難訓練、玉川地域利用者交流会、法人研修

(2) 地域交流

<p>① 地域住民との交流・連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事会を継続的に5回実施。（スプリンクラー工事のため例年より回数減少）地域に暮らす障害者（自立体験・短期入所等の利用者、相談でかかわった障害者）とスタッフ、及びボランティアとで、調理から食事・片付けまでを共に行う場を作ってきた。今年度新たな参加者も増え、
--

毎回 35 名～45 名の方が参加している。

- ・ 利用者同士の交流の場として「語る会」を食事会の後に実施した。地域で一人暮らしをしている方、これから考えている方、年齢も経験も様々な方が参加して、「自立」や「差別」「災害」など様々なテーマについて自由に意見交換している。

②地域の関係機関との連携・交流

- ・ 玉川エリア自立支援協議会・玉川支援ねっと（玉川地域の障害者施設等のネットワーク）に参加し、研修会や事例検討会、職員交流会、利用者交流会に参加している。
- ・ 玉川健康づくり行動計画策定委員会に出席している。

(3) 家族、関係機関との連携等

①家族との連携

利用者情報の反映を適宜行うため、利用前から利用後にかけての情報更新フローを見直した。また、家族からの情報聞き取りに関するフォーマットの検討を進めている。また、ヘルパー事業所とも連携して支援を行うと共に、情報共有を進めるため研修を行った。

②ケース会議（支援会議）の開催

特に自立体験（一般利用）においては、定期的にケース会議を行い、家族・支援者と連携して支援するように努めた。短期利用に関しては、本人・家族のニーズをより積極的にくみ上げるため、モニタリングと会議開催を主体的に呼びかけることを確認した。

③相談支援事業との連携

併設している相談支援事業と相互連携して支援を行う中で、当施設を退所して地域での一人暮らしを開始した利用者を相談室が引き続き支援するなど、施設の特徴を生かして支援を行っている。

(4) ボランティアや実習生の受入れ

- ・ 定期開催している食事会には、社協を通じて地区サポーターの方がボランティアとして参加している。
- ・ ボランティア 3 名が週 2 回、施設の食堂、トイレ、浴室等の清掃を引き続き行っている。

(5) 危機管理

①防災

夜間時の火災を想定し、利用者も参加しての避難訓練を 2 回行った。また地域の防災訓練に参加するなど、地域の防災協定にも参加している。

②防犯

区対策として防犯カメラ・カメラ付インターホン・非常通報装置の設置など防犯対策が行われた。また地域との交流や連携が防犯につながるという考えから、積極的に地域との交流を進めた。

③AED の設置

新たに 2 名の職員が AED 研修を受講した。

④感染症予防

ノロウイルス、インフルエンザ等の感染防止に努め、職員の予防接種を実施したほか、マニュアルや嘔吐等の際の対応グッズを見直した。特にノロウイルス対応について昨年同様、医師を講師として招き、状況を変化させた演習を交えながら検討した。

⑤ヒヤリハット事例

ヒヤリハット事例を、電子情報として申し送り内に記載。日常業務の中で重大事故に至る前の気づき（インシデント）の振り返りに役立てた。これを月 1 回の支援会議の中で取り上げ、事故防止のための具体的な解決策を協議した。

(6) 職員研修の実施

- ・ 利用者の生活を支える制度についての法人全体研修に参加した。
- ・ 職場内では3月に誤薬防止研修を実施。(常勤・非常勤職員、ヘルパー対象)
- ・ 常勤職員は個別支援計画を立て、それぞれの課題に沿った研鑽を行い、報告、業務への反映を行った。
- ・ その他、世田谷区自立支援協議会、玉川エリア自立支援協議会および玉川支援ねっとが主催する研修会、シンポジウムなどに積極的に参加した。

(7) その他(苦情・事故等)

①採用

- ・ 非常勤・アルバイト職員に関しては、地域へのチラシ配布を行い、安定的な人数を確保した。常勤職員に関しては、インターネット求人を実施し、必要なスキルを持った人材を確保することができた。

②苦情(1件)

- ・ 短期入所利用者が深夜に介助を求めたところ、介助者が不適切な発言を行った。利用者からの訴えで発覚、その後、本人や支援者と話し合いを複数回持ち、協議する中で、具体的な介護方法を本人から聞き取り、支援に反映させている。

③事故(2件)

- ・ 自立体験室利用者がヘルパーと外出中、誤って車椅子から落下・転倒し、打撲と診察された。ヘルパー事業所から顛末を聴取し、再発防止のための指導を行った。
- ・ スプリンクラー工事期間中に居室で調理を行っていたところ発煙し、火災報知機が作動。消防隊が出動する騒ぎとなった。検証の後、近隣住民への謝罪を行った。

3 重点課題と取り組み・成果

2018年度は以下の3つを重点課題として挙げ、取り組んだ。

①短期入所等介護体制の更なる整備

→ 区と継続的に協議し、介護料の増額が得られたことにより、介護者の待遇改善につながるとともに、他社参入のきっかけともなった。介護者が以前より安定して確保できることで、職員の負担が軽減され、職場環境の改善にもつながった。

②自立体験事業の蓄積と課題の整理

→ この10年の実績を整理し、分かりやすくまとめたことで、自立体験室の意義を再確認することや、対外的に発信する情報として活用することができた。特に自立体験室(短期利用)に関しては、モニタリングや目標設定が課題であることが判明したため、次年度の強化課題とする。

③各種マニュアルの整備

→ ノロウイルス対策など、研修と共にマニュアルを再作成し、更新を図った。しかし、他のものに関しては既存のままになっており、危機管理から優先順位をつけ取り組んでいく。

④業務内容見直し・効率化と適切な職員配置

→ 職員それぞれが自らの仕事を確認できるよう、多岐に渡る仕事内容の可視化を図ると共に、データ整理を進め、効率よく業務に取り掛かれるようにした。また、会議における効率化に取組み、課題抽出と検討事項、支援方針が一覧できるフォーマットを作成した。

⑤情報共有・発信力の強化

→ なかまっちの活動を周知するため、チラシやプレゼンテーション資料を積極的に作成した。一方ホームページに関しては、若干の改良にとどまっており、課題となっている。

